



オリーブ通信

野のはな空のとり保育園

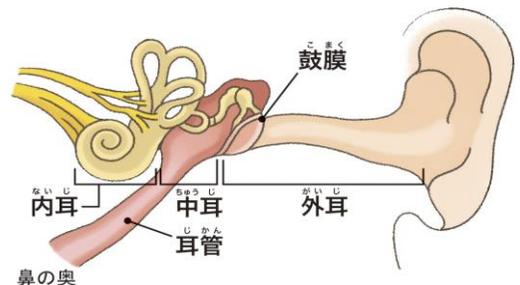
2025年 3月

3月3日は3（み）3（み）にちなんで「耳の日」です。子どもは風邪などの症状から耳のトラブルを起こすことがしばしばあります。子どもならではの症状を知って、耳を守りましょう。

耳の構造

《耳の仕組み》

耳には、外耳・中耳・内耳の3つの部分があります。耳の穴から鼓膜までが外耳、鼓膜の奥には中耳・内耳があります。内耳では音や体のバランスなどをキャッチしています。



《耳の病気》

◎急性中耳炎

中耳は「耳管」という管で鼻の奥とつながっています。子どもは耳管が短く傾きがなだらかなため、鼻の中のウイルスや細菌が耳管を通して中耳に入りやすく、中耳炎を起こしやすいです。なので、風邪を引いて鼻水が出ているのをそのままにしておくと、鼻水の中にウイルスや細菌が繁殖し、中耳炎の原因となります。中耳炎は鼓膜を圧迫するため強い痛みが起こります。痛みや違和感のため耳を触ったり頭を振ったりします。早めに耳鼻科を受診するとよいでしょう。



《聞こえにくさ》

聞こえにくさ（難聴）には、生まれつき聴力が弱い場合と、病気が原因となっている場合があります。

◎滲出性中耳炎

急性中耳炎が治りきらないと、中耳にサラサラとした液（浸出液）がたまって鼓膜の振動が悪くなる病気。

（症状）

- ・痛みや発熱がない
- ・耳閉塞感
- ・難聴

（原因）

- ・鼻炎や副鼻腔炎などの炎症
- ・急性中耳炎の不完全な治療

（経過）

- ・発症から3か月は通院しながら様子を見るのが勧められています。
- ・長期に未治療の状態が続くと将来難聴が残ったりします。

（治療）

- ・鼻水をコントロールすることで、耳の奥に溜まった浸出液が抜けていきます。
- ・鼻水が多い時や鼻詰まりがひどい場合はこまめに受診して、鼻吸引などを受けましょう。

◎おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）

原因となるウイルスが内耳（音を感じる部分）に感染して難聴を起こすことがあります。予防接種を受けて、感染を防ぐことが大切です。

※聞こえのチェック。

- ・テレビの音が大きい
- ・後ろから呼んでも気づかない
- ・後ろから名前を呼んでも振り向きなかつたり、返事をしなかつたりします。
- ・左右差がある場合もあります。

